

計画者	合同会社北海道山岳整備 上川総合振興局		<input type="checkbox"/> :計画箇所について、計画者と事業執行者が :同一である場合はチェック		
担当者	氏名	岡崎 哲三	電子メール	sangakuseibi@potato.ne.jp	
			電話番号	0166-84-5115	
対象箇所	裾合平分岐付近				
作業の 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道脇の凍結融解現象による侵食部の植生復元 ・木柵階段における落水水による洗掘現象の軽減と段差高の解消 				
利用する工 法	分散排水工	床止工	土留工	マルチング工	
	路面処理工	段差処理工	植生基盤工	その他()	
作業予定日 時又は期間	2019年8月31日		参加予定人数	約40名	
			参加者内訳	参加者の一般公募 ● : 実施する : 実施しない	
安全対策 (保険の適用、 連絡網の整備 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア保険 ・北海道山岳整備は傷害保険、労災 				
主な資材と その調達 (予定)	資材	数量	調達方法		
	ヤシネット	1m×30m	現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)		
	丸太	18本	現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)		
	カスガイ	50本	現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)		
			現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)		
			現地採取/搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)		
道具の貸し出 し希望 (自然保護官 事務所・森林 管理署)	物品	数量	希望先	貸出予定日時	返却予定日時
	背負子	10	環境省	8月下旬	9月初旬
位置図(地形図、国立公園の公園計画図、国有林又は道 有林の施業計画図など)			登山道管理水準		
			保全対策ランク	A・B・C・D	
			この場所は環境省直轄工事が行われた場所であるが、その施工だけでは自然環境が守られるわけではなく、利用や自然圧に対応するメンテナンスや植生復元の追加施工があつて初めて維持されるものと考えます。数年間にわたって復元工やメンテナンスが行なわれているこの場所は、どのような維持管理が必要なのかという、整備指針の基本の一つとして見る事ができる。		
			利用体験ランク	1・2・3・4・5	
※事務局記入欄					
国立公園	保護規制計画:	特別保護地区			
	利用施設計画:	沼ノ平姿見の池線道路(歩道)			
	事業執行者:	環境省・北海道	担当部署:	東川自然保護官事務所・上川総合振興局	
土地所有	国有林・道有林・その他()	担当部署:	上川総合振興局南部森林室		
天然記念物	該当あり・該当なし	担当部署:	東川町教育委員会		
備考					

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

<植生復元工>

過去の復元工を観察しながら、どのような施工であれば植物が育ちやすくなるかを考え、土壌と種子、光、水、侵食状況、などを検討し、計画的に施工できるように配慮する。

施工方法(見取図、写真等)



- ・過去の事例を観察すると、有機質土壌と種子の混じる最上部の土留めに発芽が集中している。
- ・しかし、中段や下段には発芽は少なく、堆積している土壌の質も違う。
- ・法面全体で発芽する環境を目指し、侵食され流される土壌をいかに有効に堆積させ、発芽環境へ変えるかを想定し、場所に合わせた施工を行なう。



<イメージ図>

- ・施工はチングルマが多くみられる法面で行なう。
- ・生態系の底辺が住める環境を復元させるという「近自然工法」の発想で施工する。
- ・人為的に種子を採取することなく、種子が自然に土壌と混じり発芽していく環境を作る。
- ・過去に行なわれた施工の続きとして行う。
- ・今回も法面にヤシネット巻止め工を作るが、過去のように3段にせず、最下段のみを施工。
- ・上部の有機質土壌と種子が下段にいきわたり、発芽が起きるように施工する。
- ・下段の堆積と発芽が確認されたのち、中段を施工するなど、復元状況に合わせた今後を考える。



備考



- ・場所によってはネットをべた張りにした施工からの発芽も多くみられる。
- ・ちょっとした施工の変化で発芽が起きる場所と起きていない場所があり、その変化を記録し、同様の変化が起きるかを検証する施工も行ないたい。

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

<木柵階段の補修>

木柵階段の段差が高くなると①登山道を通る水の落下水による洗掘現象が大きくなり侵食が拡大する。②登山者が高さを嫌がり、植物帯への踏み込みが多くなる。といった問題が起きる。これらに対応すべく、段差解消と土留めを兼ねた施工を行なう。

施工方法



- ・段差解消と法面の土留めを行なう施工
- ・木柵を固定し、背面には石材を詰め込む
- ・資材(石材)は300mほど下流の登山道を横切る沢から集める。沢を見る限り、昨年と今年で流れてきたぐり石や砂利が見えるので、必要量は確保できる。

・段差解消による植物への踏圧を無くす施工



- ・落下水による洗掘現象を軽減する施工
- ・落下水の位置には砂利ではなく、ぐり石や大き目の石材を使って、流水で流されないように施工する。



- ・木柵脇から流れる流水を抑える施工
- ・流路を塞ぎ、木柵の切り口へと変更する。

備考

施工延長200m区間において、・約50mの法面保護工・18段の段差解消施工を行なう。

昨年度の施工状況と評価



前年度はそれぞれ



・ヤシネットの巻止め施工箇所において、チングルマが上部にあり種子が落ちてくる状況で、有機質土壌がネットに堆積している場所では多くの発芽が見られる。

・降雪があると真っ先に溜まる場所であり、雪解け時期には遅くまで雪が残る環境なので、凍上で根が切られることなく成長していると思われる。

・ヤシネットに堆積した土壌からだけでなく、ヤシネットの側面や下部からも発芽が見られるのでヤシネット自体が発芽環境に適した素材だと思われる。

・法面の木本類がランナーを伸ばした時に、上部に堆積した土壌にたどり着けば、そこでの定着も期待できる。



この付近だけでなく、ヤシネットのべた張り箇所において、発芽する状況と全く発芽の見られない状況もある。

現場によってさまざまな原因が推測される。

多角的に考え、一面的な施工にならないように配慮する。